

予は危険人物なり。
 みやたけがいこつ
 ～宮武外骨此中にあり～



戸籍上正式な名にも関わらず、あまりにも役所などで「本名を名乗れ」と言われるため、癪になって作った「是名也」の印。「スコブル」第一号に改印広告も掲載。

「自らは国家的観念の発露と信じ、超俗的非凡の動作と信じて居るに、或方面の人々は予を危険人物と目して居る」。『宮武外骨自叙伝』はこんな文章から始まります。宮武外骨（1867～1955）は、ジャーナリスト、作家、新聞史研究家、風俗研究家…と様々な顔を持ち、『滑稽新聞』や『スコブル』など、170以上の新聞や雑誌を発行した奇人です。

己の正しいと思う道をひた走り、間違っていると感したら、例え相手が政府だろうが、とことん紙面で攻撃するため、入獄4回、罰金・発禁など筆禍はなんと29回！意地と頓智で権力を痛烈に批判し続けた反骨者、外骨ですが、その底辺に流れるのは、弱者への優しい眼差しでした。

なお、東京帝国大学（現東京大学）に、明治新聞雑誌文庫を創設した方でもあるんですぞ！



「滑稽新聞」に掲載された書中見舞いの外骨先生。自画像は基本、癪癪起こして頭割れてます。

かわら版と「読売」

江戸期、事件をいち早く伝えるために摺られた不定期刊行のニュース媒体物、「かわら版」。絵画を中心に説明書きが添えられたものが多く、一枚刷りまたは半紙二枚折りを数枚綴じたものなどがあります。その語源は、半乾きの瓦に文字を刻んだものが使われたから…という説もありますが、定かではありません。

さて、実は「かわら版」という言葉は江戸時代には使われておらず、「読売」や「辻売りの絵草紙」などと呼ばれ、それを街角で売る商い人も「読売」と呼ばれていました。

「読売」は、主に二人一組で街角に立ち、一人がかわら版の内容に節を付けた口上で面白く読み誂い、もう一人が扇子などで拍子を付けて販売をしていたといわれています。下の図版のように、編み笠を深く被った状態で描かれますが、これは、情報規制が厳しかった江戸期、政治的な事件などをかわら版で取り上げるのが御法度だったためという説があります。見つければその場でお縄になるため、すぐに逃げられるよう、顔を隠す必要があったのだとか。今も昔も、情報を伝える人の苦勞が伝わってきます。

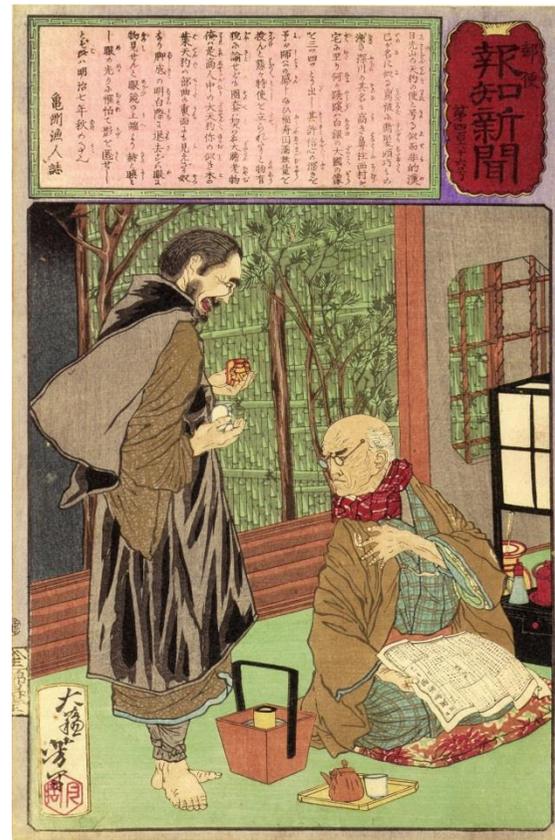


青森県立図書館 参考郷土室

〒030-0184
 青森市荒川字藤戸 119-7
 電話：017-729-4311
 F A X：017-762-1757
<http://www.plib.pref.aomori.lg.jp>

新聞歴史事始

それは、瓦版から始まった。



『郵便報知新聞』第四百六十六号（明治八年二月）

錦絵新聞は、明治初期、江戸期からの「錦絵」の技術と、幕末に新しい概念として導入された「新聞」とが結びついて生まれました。新聞本紙の記事から人々の好奇心をくすぐる事件を選びすぐり、平易な文章と鮮やかな色彩の錦絵で、市井のニュースを伝えました。上の図は、最後の浮世絵師の一人、月岡芳年の画。画中の老人も「郵便報知新聞」（錦絵新聞の元になった新聞）を読んでいるのに注目です。

青森県立図書館 参考郷土室

2014 図



新聞歴史事始 ～それは、瓦版から始まった。～

挿画：ビゴー作「号外売り」

しんぶん【新聞】新聞紙の略。社会の出来事の報道・解説・論評を、すばやく、かつ広く伝えるための定期刊行物。（『広辞苑』第六版より）

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
日本における新聞連載子ども漫画の戦前史	徐園/著	日本僑報社	2013	726.101ジ`ヨ`*I	10214443264
文明開化の錦絵新聞 東京日日新聞・郵便報知新聞全作品	千葉市美術館/編	国書刊行会	2008	大型721.9ア`ソ`ムカイ	10213775091
反骨 反骨のジャーナリスト 陸羯南・宮武外骨・黒岩涙香	松山市立子規記念博物館/編	松山市立子規記念博物館	2008	大型070.21マツマツリ	10213259461
日本型メディアシステムの興亡 瓦版からブログまで	柴山哲也/著	ミネルヴァ書房	2006	070.4ジバ`ヤマ`キテ	10213535384
日本の新聞をカラーに変えた男	高取武/著	鳥影社	2005	070.17タカトリキ	10213454265
錦絵のちから 幕末の時事的錦絵とかわら版	富沢達三/著	文生書院	2004	721.8トミザ`ウキタ	10213930149
日本新聞通史 1861年-2000年 4訂版	春原昭彦/著	新泉社	2003	070.21ハルハ`ア`2003	10213024067
大衆新聞がつくる明治の〈日本〉	山田俊治/著	日本放送出版協会	2002	070.21ヤマダ`*シ	10212928801
ニュース記事にみる日本語の近代	小林弘忠/著	日本エディタースクール出版部	2002	070.163コバ`ヤシ`ヒ	10212791682
社説の大研究 新聞はこんなに違う！	産経新聞論説委員室/編・著	産経新聞ニュースサービス	2002	070.4シャセツリダ`	10212784463
明治のジャーナリズム精神 幕末・明治の新聞事情	秋山勇造/著	五月書房	2002	070.21アキヤマ`キ	10212777754
大衆紙の源流 明治期小新聞の研究	土屋 礼子/著	世界思想社	2002	070.21ツチヤ`レ	10212835902
機関紙の歴史 戦後編	林直道 ほか/監修	日本機関紙出版センター	1999	070.21キカンシ`ル	10212413534
明治新聞事始め 「文明開化」のジャーナリズム	興津要/著	大修館書店	1997	070.21キツツカ	10212058404
かわら版物語 江戸時代マスコミの歴史	小野秀雄/著	雄山閣出版	1988	070.2オノ`ヒ	10200122023

連載小説が文化を生んだ ～新聞を彩った珠玉の作品たち～（※新聞掲載年度順）

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
其面影	二葉亭四迷/作	岩波書店	1938	080ウナミ`ブ` (リ)	10200357733
こころ	夏目漱石/作	岩波書店	2002	080ウナミ`キ` (204)	10212915248
金色夜叉 上・下	尾崎紅葉/作	岩波書店	1939	080ウナミ`ブ` (J-1) 080ウナミ`ブ` (J-2)	10200357029 10200357030
あらくれ 日本文学全集 8 徳田秋声集		集英社	1986	竹内918.6ニホフ`ソカ` (8)	10201122167
一寸法師 江戸川乱歩全集 3	江戸川乱歩/著	講談社	1978	918.68イト`ガ`ウラ1978(3)	10201876916
丹下左膳 1～5 林不忘傑作選	林不忘/著	山手書房新社	1992	913.68ハヤシ`ブ` (1) ～(5)	
グッド・バイ	太宰治/著	角川書店	1998	913.6タ`ザイ`オ	10212332244
青い山脈	石坂洋次郎/著	新潮社	1968	郷出913.6イシバ`カ`ヨ	10212452101
陽のあたる坂道 改版	石坂 洋次郎/著	角川書店	2006	913.6イシバ`カ`ヨ2006	10213479978
八日目の蝉	角田光代/著	中央公論新社	2007	913.6カクダ`ミ	10213637031
西遊記 上・下	平岩弓枝/著	毎日新聞社	2007	913.6ヒライワ`キ` (1) 913.6ヒライワ`キ` (2)	10213637105 10213646708

※紹介している本は、多くの資料の一部です。お探しの資料が見つからない場合には、職員にお尋ねください。